学校評価書　令和5年度(2023年度)

（S…目標を大きく上回る成果、 A…目標以上の成果、 B…ほぼ目標を達成、 C…目標を達成できず、 D…目標に対して、著しく下回る状況）

学校名	早鞆高等学校	学校状況	生徒数	869名	教育目標	総合評価 学校自己評価	総合評価 学校関係者評価	今後への改善点
校長名	林　哲郎		設置学科	普通科 自動車工学科 生活クリエイト科 衛生看護科	・個性を伸ばし、自主性を養い、明朗快活で勤労意欲に富んだ実践力のある人物の育成を図る。 ・「仁、智、礼」を掲げ、基本的生活習慣の確立、基礎学力の向上、礼儀正しさの涵養を目指す。	B	A	全ての項目でほぼ目標が達成されているが、目標以上の達成が見られる項目を1つでも多く増やしていく。また、変化が求められている学びのありかたにしっかりと順応していく。
設置の経緯	明治34年(1901年)阿部ヤスによって地域の子女の知育、徳育、和裁教育を目的に設置。その後、時代の変化に即応して男子生徒の募集、学科・コースの新設・改編を行いつつ地域教育の中核を担っている。							

評価項目	取組状況 目標		取組状況 具体的方策（教育活動）	学校自己評価 自己評価 個別評価	学校自己評価 自己評価 総合評価	学校自己評価 取組状況・成果・課題	今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見
菁菁館	第Ⅰ類	学習習慣の定着と成績向上	・学習習慣の改善 ・学力向上に向けた授業内容の充実 ・週６日制の授業体勢の確立（週39単位） ・８時間目のＥＣＬ（選択受講制）の展開 ・少人数による選択授業の展開 ・スタディサプリの活用	A	A	３年生では受験に向けて早い段階から日々の学習習慣を意識した取り組みが見られた。先輩の姿を目にすることで後輩の中に自主的に学習に向かう生徒も増加した。限られた時間の中で、各教員は指導の充実に向けて取り組んでいるが、個々の教員の取り組みに差がでないように心掛けなければならない。学力向上に向け、コース全体としての一定レベル以上の指導体制を調整していくことが課題である。	通常授業内でもICTの活用が一般的になってきているので、より効果的な活用法を工夫することで生徒自身が主体的に取り組む場面を増やしていく。多くの教科でスタディサプリを朝学で活用しているが、朝学以外の場面での活用法を考え、個々の生徒の理解度や定着度の向上を図るとともに、生徒の活用状況をチェックして習慣化していく。	A	すばらしい学習環境の中で自主的に学習する生徒が増加しているようなので、一人でも多くの生徒が、有名大学や希望校に合格できるように支援をして欲しい。
		自立へ向け、生きる力を身につける	・公的な場における言動や身だしなみ ・挨拶など他者への配慮を持つ ・場にふさわしい行動を自発的に行う	B		服装等で大きな乱れはなく、普段の挨拶等も一定レベルではできている。多くの生徒は、その場の状況に応じて対応しようとはするが、自ら考えて判断し行動できる生徒は少数である。その中でも生徒会役員を中心にして主体的な取り組みがいくつも見られたのは評価できる点である。	教員間の共通理解を図り、菁菁館で育てたい生徒の資質能力を意識し、その育成のために日々の授業や特別活動を適切に設定することが必要である。また、学校行事を通して生徒一人一人が集団の一員としての自覚を深め、お互いの良さを活かした人間関係形成を目指すような指導も必要である。		
		進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	・進路便りを作成し、基本情報を提供する ・進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる ・定期的に個人面談を行う	A		年間を通じて計画的にGPSアカデミックや学びみらいPASSなどの教材を活用して学年間で統一した取り組みを行った。また低学年段階から生徒の主体的な活動を求める進路ガイダンスを行い、指導内容の充実を図った。３年生においては難関大学をはじめ国公立大学合格者を含めて多くの第一志望合格者を出すことができた。１年時からの継続的な取り組みが結果に結びついた思われる。	総合的な探究の時間においては指導体制の調整を行ってきたが、更に生徒自身が主体的に学習に取り組んでいけるように修正を行い、社会を生き抜くための資質・能力を育成する。大学等進学を見据えて総合型選抜・学校推薦型選抜も意識した取り組みと一般入試に向けた日々の学習習慣を確立することで学び続ける姿勢を養成する。		
	第Ⅱ類	学習習慣の定着と成績向上	・学習習慣の改善 ・学力向上に向けた授業内容の充実 ・週６日制の授業体勢の確立（週39単位） ・８時間目のＥＣＬ（選択受講制）の展開 ・少人数による選択授業の展開 ・スタディサプリの活用	B	B	放課後の学習習慣が定着し、真摯に学習と向き合い成績を伸ばした生徒がいる一方で、学習習慣・学習意欲がまだまだ不十分な生徒も多くいる。各学力層に応じた授業運営や弱点の補強をすることが望ましいため、ECLでの学習支援や朝学でスタディサプリ等も活用して学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るように取り組んできた。生徒への継続的な支援と状況確認が課題である。	通常授業内でもICTの活用が一般的になってきているので、より効果的な活用法を工夫することで生徒自身が主体的に取り組む場面を増やしていく。多くの教科でスタディサプリを朝学で活用しているが、朝学以外の場面での活用法を考え、個々の生徒の理解度や定着度の向上を図るとともに、生徒の活用状況をチェックして習慣化していく。	A	個人差が大きい集団なので、個々に応じた指導をお願いいしたい。 他者への配慮ができる心を育て、クラス全員で目標が達成できるよう、できる限りの支援をお願いしたい。
		自立へ向け、生きる力を身につける	・公的な場における言動や身だしなみ ・挨拶など他者への配慮を持つ ・場にふさわしい行動を自発的に行う	B		服装等で大きな乱れはなく、普段の挨拶等も一定レベルではできている。多くの生徒は、その場の状況に応じて対応しようとはするが、自ら考えて判断し行動できる生徒は少数である。生徒によっては、他者への配慮が不十分である行動も見受けられた。望ましい人間関係を構築するとともに問題を解決へと導く主体性を身に付けていく指導が必要である。	教員間の共通理解を図り、菁菁館で育てたい生徒の資質能力を意識し、その育成のために日々の授業や特別活動を適切に設定することが必要である。また、学校行事を通して生徒一人一人が集団の一員としての自覚を深め、お互いの良さを活かした人間関係形成を目指すような指導も必要である。		
		進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	・進路便りを作成し、基本情報を提供する ・進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる ・定期的に個人面談を行う	A		年間を通じて計画的にGPSアカデミックや学びみらいPASSなどの教材を活用して学年間で統一した取り組みを行った。また低学年段階から生徒の主体的な活動を求める進路ガイダンスを行い、指導内容の充実を図った。３年生においては推薦入試に力を入れる生徒が多い中、一般入試合格に向けて最後まで学習を続け、第一志望を勝ち取る生徒も見られた。	総合的な探究の時間においては指導体制の調整を行ってきたが、更に生徒自身が主体的に学習に取り組んでいけるように修正を行い、社会を生き抜くための資質能力を育成する。大学等進学を見据えて総合型選抜・学校推薦型選抜も意識した取り組みと一般入試に向けた日々の学習習慣を確立することで、学び続ける姿勢を養成していく。		
教務部	教員の作業環境を充実 備品の使用を減らす工夫		・機材や備品等の管理、補充等を行う ・無駄のない使用法や効率化を図る	B	B	・機材や備品の管理、早めの備品補充や交換を行い、各教員が作業を円滑にできるように心掛けた。備品の使用量や頻度に改善が十分に見られなかったため、無駄も多くあったと思われる。 ・校務支援の導入で作業の効率化が進んだものの、入力間違い等が多くあり、点検作業に時間を多くとられた。	・各教員が無駄をなくすと意識して行わないと、備品等の使用量は減少しないので、呼びかけや工夫をしてもらう。 ・来年度からはシステムが変更されるので、使用方法等の周知を徹底していき、一人ひとりが間違わない努力をしていただく。	B	これまでと違った学び方を国等から求められているので、それに対応していくことはご苦労があると推察する。そうした中でも、 しっかりと対応されといると思うので、生徒たちにより良い学びが提供できるように取組んでもらいたい。
	円滑な学校運営の下支えをする 伝達・周知を迅速、丁寧に行う		・業務連絡の確実な伝達 ・緊急時における情報伝達 ・職員会議等の資料準備	B		・いろいろ伝達方法を工夫し、各教員が作業を円滑に行えるように工夫をしたが、伝達事項を見なかったり、把握しないような場面が見られた。 ・緊急の伝達は担当が分担して協力し素早く行えた。 ・会議等の資料の準備は行え、管理できた。	・紙媒体だけでなく、メールやグーグルドキュメント等を活用して周知をする工夫をし、内容の情報量が多くならないようにして分かりやすく示すなどの工夫がいる。		
	学習指導要領に沿った学習の取り組み および内容の工夫・改善を行う		・各学科における教育課程の分析 ・授業運営の工夫や評価方法の周知	B		・情報等が入ることで新課程における評価方法等の理解が進み、対応ができるようになってきた。しかし、個人差があるのか、不十分なところが見られ、教科内で理解を深め、工夫や改善をしていかないといけない。	・教育課程や学科・コースの特徴を把握しつつ、授業運営や育てる生徒像を思い浮かべ実戦に臨んでもらう。 ・各教科で見取りの場面の見直しをして、生徒だけでなく指導する側の改善をして、より良くしていく。		

評価項目	取組状況		学校自己評価			今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価		取組状況・成果・課題			
			個別評価	総合評価				
総務部	生徒が充実した高校生活が送ることができるように教育活動に努める	・地域社会に学科・コースの特色を活かした教育活動の理解をはかる ・修学旅行を通して国際理解や学校生活では体験できないことを学ぶ	A	B	・海外研修は中止、代替として国内修学旅行が実施され、学年団の尽力で生徒の思い出に残る素晴らしい研修旅行になった。 ・芸術鑑賞、早鞆祭、戴帽式、針供養等の行事はコロナ前の活動になり、準備・片付けなど連携協力体制で実施できた。 ・しものせき美化美化大作戦に550名を超える参加者があり、精力的な活動を行い、周辺地域住民から好評を得た。 ・校内施設改善は、総合学習館外壁改修、北駐車場の整備各教室に遮光カーテンを設置した。 ・缶、ペットボトルの分別は学校全体で良く取り組めている. ・学校施設や備品に対する全体的な公共心の低下を心配している。	・各行事についてはコロナ前の活動に戻り、保護者等の入場制限も緩和され、無事に終了することが出来た。 ・早鞆祭後にインフルエンザが流行し、学校閉鎖になったことを考えると感染防止に対する対策等を引き続き注意して行う必要がある。 ・校内美化を一層充実させ、学級担任の負担を軽減しながら環境整備を進め、生徒が積極的に学習・クラブ活動に参加しやすい環境を整えていく。 ・教職員、生徒、保護者アンケート・意見を整理し、今後の施設改善を計画する。	A	新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、学校行事を制限なく実施できたことは大変喜ばしい。 校内美化は行き届いているので、今後は校舎外の美化活動に尽力していただき、落ち着いた学習環境がより整備されることを期待する。
	校舎内外の美化に努める（重点目標）	・教員、生徒が共通認識を持って、学校美化に努め，掃除状況を把握し、校舎を整備する意識を向上させる ・ボランティア活動へ積極的に参加することで奉仕の精神を養う	B					
	エコ・リサイクル活動を推進する	・節水、節電を心がけるように指導する ・リサイクル活動の資源活用意識を定着させる	B					
生徒指導部	社会性と基本的生活習慣を身につけさせる	・校門における挨拶の励行（毎朝） ・朝礼・終礼前、授業前の静座黙想指導	B	B	・生徒の規範意識が年々低下している中、学級担任を中心に時間をかけて指導をしてきたが、一部の生徒は改善できなかった。怠惰による遅刻や欠席をする生徒も多いため、保護者との連携が大切ではあるが、ご家庭の理解と協力を得ることが難しいケースも生じている。教員間でも指導に差が生じてしまい、不平不満を口にする生徒や保護者も出してしまった。生徒指導部として、学級担任の学級運営を十分にサポートできなかったことに力不足を感じている。 ・教育相談については、今年度から毎月開いた委員会で、管理職、各学年主任、養護教諭と情報共有をすることができた。しかしながら、交友関係が上手くいかなかった生徒に対して、十分なサポートができたとは言えなかった。	・生徒指導については、生徒や保護者の理解を得ることが一番ではあるが、教員の相互理解も大切だと考える。 ・今年度は生徒指導部から出した指導方針等を、生徒に伝えることができなかった学級担任を数名出してしまった。教員にも得意・不得意があるとは思うので、その教員の能力に応じて、サポート・フォローをしていきたい。また、管理職に相談をして、校内外で教員研修を設定し、社会人として、教員として最低限のことができる教員を増やしていきたい。 ・各学級で「生徒自身が主体的に考える」授業を実施できるように、LHR等で使用できるパワーポイントの作成を行いたい。	B	保護者や生徒の価値観の多様さや社会がデジタル化されたことによる様々な変化により、生徒指導は以前より対応が難しくなっていると思う。そうした変化にうまく対応していただき、社会に適応できる生徒を育成して欲しい。
	規範意識を持たせる（生徒自身が主体的に考え、社会秩序の大切さを理解させる）	・学期2回程度の頭髪服装検査 ・毎月の教育相談委員会 ・学期末のいじめ対策委員会 ・校内巡視　　・校外指導 ・全体指導　　・個別指導 ・違反者指導　・別室指導	B					
進学指導部	進学する生徒の進路先の確保	・志望する大学・短大・専門学校等へ進学させる ・進学先未定生徒を減らす	A	B	・今年度は4年制大学(35名)短期大学(6名)専門学校(81名)に合格することができた（本館卒業生）。 ・基礎力診断テストを実施し、基礎学力向上に努めているが、まだまだ活用する余地は残っているように感じる。 ・毎年、小論文模試を実施しているが、自分の言葉で表現する能力が十分に身に付いておらず、志望理由書等の指導で苦労する場面があった。そのため、初めての試みで教員対象に志望理由書の書き方講座を開き、生徒への指導の一助となった。 ・外部講師を招き面接講座を実施し、生徒への面接対策をおこなった。 ・従来実施している進路ガイダンスや上級学校見学会の他に、職業体験イベントに参加するなどして生徒に進学情報だけでなく職業理解の機会を提供した。	・学校推薦型選抜や総合型選抜制度を利用して進学する生徒の中には、入学後に基礎的な学力が懸念される生徒も見受けられる。基礎力診断テストや模擬試験等を通じて学力向上に努めたい。 ・進学に対する意識が十分に育っておらず、志望動機等の表現に苦労する生徒が増加傾向にある。外部講師による講座等を通して面接や志望理由書の対策をさらに充実させていきたい。 ・従来の情報提供型の内容から、体験型のガイダンスに変更していく必要があると感じる。また、昨年度から開催している3年生による合格体験発表会などを通じて、いろいろな角度から生徒の進路意識を高めることに努めていきたい。 ・進路決定の機会確保に努め、就職指導部と連携して生徒の進路にミスマッチがないようにしていきたい。	A	進学に対する意識を育てるため、様々な取組みを実施しているようなので、それがしっかりと生徒たちに伝わるよう指導していただきたい。
	進学に関する情報の収集と提供の充実	・進学に関する情報の収集 ・進学に関する情報の提供 ・進学に対する意識の向上を図る	B					
	進路意識の向上	・各種進路ガイダンスの実施	B					
	学力の向上を図る	・基礎的な学力を向上させる	B					
就職指導部	基本的生活習慣の確立	･欠席、遅刻をなくすことが進路目標の達成に大切であることを自覚させる	B	B	・外部講師による講演会、講習会を実施したことで、ガイダンスの充実を図り、働くことへの意欲の喚起に結びついた。自治体主催のイベントへも参加した。 ・３年生１学期から２学期にかけて小テスト・一般常識テストを実施した。小テストはクラスにより活用に差があった。 ・ＳＰＩ模擬試験を行い、２年生は入門編、３年生は基礎編を実施した。教科と連携して試験に向けた対策ができればよいと思う。 ・個別、集団面接を段階的に実施し、生徒も積極的に参加し、成果があったと思う。クラスによっては担任によってかなりレベルが引き上げられていた。 ・応募前職場見学は就職試験を受験した生徒のほとんどが参加し、就職意欲の向上や、早期就職内定につながった。 ・Google Classroomを利用し、各種資料の提示、面接対策や企業情報などの動画提供、面接や履歴書対策の課題作成、筆記試験対策など多岐にわたり活用した。	・１年次より自治体主催のイベントに積極的に参加したり外部講師による講習会を実施したりして、勤労観・職業観を醸成していきたい。 ・保護者説明会や相談会を今後も２年次、３年次に実施し、就職活動の流れや、企業・職種についての理解を促進していきたい。 ・２年生のインターンシップを実施した。今後の実施に当たっては、生徒の学習内容や進路希望に応じた企業等での就業体験を推進していく必要がある。 ・フリーターの道を選んだ生徒がいた。今後も正社員の利点を伝え続けていきたい。 ・Google Classroomの利用効果は高く、今後もさらに効果的な活用方法を考えていきたい。 ・Handy進路指導室を導入し、求人情報のデジタル化を行った。生徒はいつでも求人票を閲覧でき、家庭では保護者とともに閲覧することができた。	A	早い段階で進路について目を向けさせることは、生徒たちにとって大切なことだと思う。1・2年次から生徒たちに刺激を与える取組みをされているようなので、今後も継続していただき、生徒とたちの就職活動を支援してもらいたい。
	望ましい勤労観・職業観の育成	･勤労意欲の育成 （応募前職場見学、インターンシップ実施） ･外部講師による講習会を実施 ･フリーターの希望者を出さない指導に努める	B					
	社会人になる心構えの育成	･面接模擬試験を実施 ･外部講師による講習会を実施	A					
保健体育部	集団行動の充実（時間厳守、服装の正しい着用、靴の履き替え、挨拶・礼の指導）	・授業時間、全体集合等において好ましい礼法を徹底させ、入場の際は私語を慎しませる	A	B	・全体集合等において、時間厳守、整列後の私語、服装面は良くなっており、静粛な雰囲気がつくれている。 ・施設、設備面では今後、施設・設備面をさらに良くしていきたい。 ・感染症予防として、換気、手洗い、消毒等による対策をとったが、新型コロナウイルスの感染者が複数名出た。しっかりとした感染症対策を取らずに感染したケースもあるので、継続的に指導が必要である。また、今年度も性教育の講演を実施した。 ・クラブ活動の活性化については今年度は柔道部・卓球部が全国大会に出場、弓道部が全国私学大会に出場、陸上部・柔道部・卓球部が中国大会に出場した。	・全体集合で、今以上の集団行動の充実を図る。来年度は、礼・挨拶の徹底を心がけたい。 ・施設の充実については、より充実した施設が整うよう要望を伝えていく。 ・新型コロナウイルス感染症への位置づけが、第２類から第５類へ変更になれたが、状況を判断して学校生活を送る必要がある。 ・クラブ活動の活性化については、施設、設備が整うよう努力する。また、クラブ顧問との関係を密にし、クラブ活性化を図る。多くのクラブが全国・中国大会に出場できるよう努力する。	B	新型コロナウイルス感染症等の感染症対策では自己管理の能力が必要なので、その力を付ける指導をお願いしたい。 部活動の成績は、外部に対して大きなアピールになるので、早鞆高校の宣伝のためにも良い成績が収められるようにサポートをお願いする。
	施設・設備の充実 （より充実した授業展開に向けて）	・より充実した施設・設備が整うよう研究する	B					
	感染症の予防及び性教育の充実	・手洗い・うがいの実践を促し、保健の授業では予防方法を理解させる ・性教育の講演を実施	B					
	部活動の活性化	・施設、設備が整うよう研究する ・クラブ顧問との関係を密にし、活性化を図る	B					

評価項目	取組状況		学校自己評価			今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価		取組状況・成果・課題			
			個別評価	総合評価				
広報部	学校外への広報活動	・様々なメディアを通して校内外へ早鞆高校をアピールし、高校に対して好印象を持ってもらうようにする。	A	A	・先生方から様々な意見がでることによって精力的な広報活動ができている。またコース主任を始め、多くの先生方が協力してくれ結果に結びついている。 ・オープンキャンパスは昨年度よりも参加者が夏130人、秋60人増加した上、アンケートでも満足のいくものとなった。保護者の参加数が年々増加しており、中学校説明会などでも聞く話だと、中学生本人というより親を含めた周囲の大人が本人の代わりに進路決定をし始めている現象が見られる。そのためアピール対象を拡大する必要がある。推薦専願受験での受験数の増加（15名増加）には寄与できた（合格者も20名近く増加）が、やはり「一般」の受験者は減少している。今年度の公立高校倍率を踏まえると、公立が定員を減少しない限り、今年度のように公立の受験倍率が軽並み1.0倍になる可能性はあるので、推薦専願の受験者数増加を踏まえた「推薦専願での人数確保」が大事と思われる。	・公立高校に比べて、私立高校なりのフットワークの軽さが出やすいHPの充実やSNSの利用による情報発信のシステム構築は引き続き続ける必要がある。また部活動体験などの「実体験」を企画したり、「中学生保護者が来校しやすい時間帯での説明会」など、アピールする機会を構築していきたい。 ・市内生徒数を増やすため塾への広報活動もある。塾訪問を始め、情報共有を積極的に行い連携を強め、市外の高校ではなく、「早鞆」を選ぶ生徒を確保することに繋げていくことが重要。 ・市内中学校との連携を深めるため中学２年生対象の行事など、中高連携がとれる仕組みを引き続き構築していく。 ・宇部、小野田、山口地区などから徐々に生徒が入学してきているが、来年度は厳しいかもしれない。門司地区も含め諦めずに広報活動を広めたい。	A	オープンキャンパスへの参加者や推薦・専願入試の受験者が増加するなど、取組みに対する成果が表れている。少子化による中学生の減少で生徒確保は厳しい状況だが、早鞆の良さをアピールして欲しい。 遠方からの生徒確保のために、何らかの方策が必要ではないだろうか。
	学校内への広報活動	・学校内における情報伝達者として情報発信、情報交換を行い、職員の意識共有に努める。	B					
情報管理	授業改善のための提案・効率化	・教材の提案、生徒とのデータのやり取りの促進と採点ソフトの導入・定着を図る。	B	B	・クラスルームを中心に授業の活動に限らず、生徒と教員間のやりとりが日常的になった。また、採点ソフトが導入され、一人ずつ採点操作を説明し、少しずつ使用状況が良くなった。	・教材の提案ができていないので、各教科と相談しながら良いものを探していきたい。また、採点ソフトについては、入試作業にも導入を検討しているので、定期的に研修会を実施を計画したい。	B	採点ソフトの導入や校務支援ソフトの変更など情報機器の整備や活用に尽力されている事が良く分かる。教員側が、これらの変化に対応できるようにサポートをして欲しい。
	成績処理を中心とした、業務改善	･校務支援ソフトの導入の環境を整える。	B		・校務支援ソフトにおいて、観点別評価など変更事項も思うより円滑であった。ただ、コピー＆ペーストとはいえ、入力量は増えているので、一部にミスが発生しているので改善の余地がある。	・来年、校務支援ソフトが変わることもあり、出席まで登録することとなる。これまで以上に教務部と連携し、期日までの正確な入力という基本的なことを目指し、伝達・確認を的確に行いたい。		
第三学年	社会で認められる力を身につける	・基本的生活習慣を定着させる。出席率のさらなる向上を目指す。 ・校則・ルールを守り、集団生活を通して思いやりの気持ちを身につける。 ・挨拶の励行、正しい言葉遣い、礼儀に始まるコミュニケーション能力を向上させる。 ・社会の変化に柔軟に対応できるように、自ら学び、自ら考える力を身につける。	B	B	・多くの生徒が基本的生活習慣を確立させ規則正しい生活を送れた。 ・３年間通じて挨拶の取り組みが良好な学年であった。進路を意識したことからも、言葉遣いなどが改善され、礼儀正しい人間関係を構築していた。 ・感染症に対しての規制が緩和された生活の中で、学校生活をより良いものにしようとする姿勢が見られた。	・落ち着いた学校生活を送る中でも、活動の自発性や活発性を高められる取り組みを行いたい。 ・規範意識の高まりが学級や学校全体に波及するよう、より自覚した行動を促したい。 ・適切な人間関係を早期に構築させ、学校生活を安定させたい。 ・社会の変化に対応するために、より基礎の部分からの成長を促したい。	B	取組み状況に書かれていることを見る限りでは、大変よくやれていると感じる。 第3学年の生徒の中には、進路が他の生徒よりも早く決定する者もいるので、そのような生徒は、部活動で後輩の指導に当たるとか、学校行事の運営に何らかの形で関わることができると、生徒の成長に繋がると思う。
	最高学年としての自覚と責任を持つ	・最上級生として何事にも率先して取り組み、あらゆる機会に下級生に模範を示す。 ・高校３年間の締めくくりにふさわしい行動をする。	B		・学校行事が再開し、積極的に取り組む様子が見られた。 ・一部の生徒は改善が必要な場面が見られたが、全体的には落ち着いた学校生活を行い、３年間での成長を示した。	・日常の中で、他者の目線を意識した言動ができる場面を増やしたい。 ・３年間の集大成となる様々な行事等の活動をより充実させたい。		
	進路実現を図る	・志望進路先を早期に決定し、それに応じた対策を講じ、進路実現を図る。 ・積極的に進路について興味関心を持ち、自分の力で進路決定する。 ・学力を向上させ、入学試験・就職試験および卒業後に備える。	A		・進路活動を積極的に行い、進路決定をした。 ・高い意識で学習に取り組み、進路決定の準備を行った。 ・卒業や卒業後を見通して、日ごろの授業からも学力向上に努めることができた。	・進路決定における指導体制を、より組織的に行えるよう学年団としての指導力強化に努めたい。 ・進路未定者を出さない指導は、長期的に取り組み続けたい。 ・学習に向かう態度の育成に努め、得手不得手を乗り越えられる学力を身につけさせたい。		
第二学年	基本的生活習慣の確立	・高校生としての基本的生活習慣を確立する。 ・校則・ルールを守り、集団生活を通して思いやりの気持ちを身につける。 ・明るく元気な挨拶をする。正しい言葉遣い・礼儀に始まるコミュニケーション能力を向上する。	B	B	・多くの生徒が目標に向けて取り組み、一定の成果をあげていた。非常によく頑張った生徒もいるなかで、取り組みが不十分でまだまだ課題の残る生徒も一定数いた。 ・学習面では、学科･コースを問わず試験週間など自主的に放課後に残って学習する生徒が多くおり、目的意識を持って学習に取り組めた。若干名の学習が苦手な生徒に対する細かな指導が必要な部分があった。 ・進路に関しては、クラス担任を中心に適宜個人面談などを実施して生徒の状況を把握しつつ、保護者会で家庭と積極的に協力しながら進路目標を具体化させることができた。	・遅刻、欠席の減少に関する指導を継続的に行う必要がある。来年度は目指す進路を意識させ、より高い目標を達成させたい。 ・定期考査に向けての短期的な学習計画だけではなく、進路目標の実現に向けた学習へと昇華させる指導を行っていく。 ・今年度である程度具体的になった進路目標の達成に向け、早期から活動を開始し、主体的に準備をさせる必要がある。また、進路決定後も将来へ向けた目標を設定し年間を通じて最高学年としての意識を高める指導を行う。	B	全体的にはよく取組めているようなのでよい。特に学習面で、自主的に学習する姿が見られたことは、今後の成長が期待できると思う。上手に育て欲しい。
	学力の向上	・授業に積極的に取り組み、学習に臨む態度を向上する。 ・提出物を期限内に提出する習慣を確立する。 ・学力の向上を目指し、家庭学習の習慣を身につけて進学・就職に備える。	B					
	進路目標の確立	・進路についての理解を深め、具体的な目標を持つとともに自分の夢を見つける。 ・ガイダンス等に積極的に参加し、進学・就職に対する考え方を身につける。	A					
第一学年	基本的生活習慣の確立	・高校生としての基本的生活習慣を身につける。 ・校則・社会規範を守ることを身につける。また学校生活を通して他人に対する思いやりの気持ちをもつことで協調性を身につける。 ・明るく元気な挨拶をする。正しい言葉遣い、礼儀に始まるコミュニケーション能力を身につける。 ・部活動等の諸活動への積極的参加を通じて心身の健全な育成を図る。	B	B	・出欠状況については学年での取り組みや、クラスでの取り組みにより概ね良好な状態であった。現状で欠席や遅刻が多い生徒に対しても継続的に指導している。 ・校則も多くの生徒が守れていたが、一部生徒の服装の乱れや規範意識の低い場面があった。学年全体で積極的に声掛けを続けていく必要がある。 ・部活動に加入した生徒は意欲的に活動に参加していた。 ・授業態度も概ね良好であった。一部生徒については、教科担当と担任との連携を今以上に意識していく必要がある。 ・進路ガイダンスでは多くの生徒が積極的に活動し、進路意識を高め、具体的な進路目標を持つことができた。また、個人的に調べ相談する生徒も多く見られた。今後も継続的に進路探求を行っていきたい。	・欠席や遅刻が多い生徒に対して、保護者との連携を強化し、根本的な生活習慣の改善を図りたい。校則については、学級担任だけでなく学年団全体で指導していくために、連携をより強くしていきたい。 ・部活動加入は引き続き呼びかけを行うとともに、活動している生徒の様子を知り、声かけを行っていきたい。 ・授業の様子について、学級において担任と教科担当で授業アンケートを実施した。今後もより連携しやすくなるような仕組みを整理したい。 ・進路ガイダンスでは、実施後に生徒一人ひとりの振り返りを確認し、活動の成果をより深く進路決定につなげていきたい。	B	第2・3学年も同様だが、自己評価における総合評価がBということで、ほぼ目標が達成されていることはすばらしい。比較的に指導しやすい生徒たちが多いようなので、人と人との関りを大切にする心を育てて、2，3年生になるにつれてさらに成長していけるよう支援をお願いする。
	学習習慣の定着	・授業に積極的に取り組み、学習に臨む態度を確立する。 ・ノート・プリント等を提出物を期限内に提出する習慣をつける。 ・基礎学力の向上を目指し、進路に長期的に備える。 ・学力の向上を目指し、家庭学習の習慣をつける。	B					
	進路目標の設定	・進路についての理解を深め、具体的な目標を持ち、自分の夢を見つける。 ・ガイダンス等に積極的に参加し、進学・就職に対する考え方を学ぶ。 ・自ら積極的に進路について興味関心を持ち、担任や保護者と相談していく。	B					